

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
丘のりんご		R 7 年 3 月 31 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		人数や活動内容によって室内だけでなくガレージに出て療育支援を行っている。 室内だけではなく、ガレージも使い伸び伸びと過ごせるようになっている。 部屋の中だけでなく、ガレージで体を動かせるスペースがあります。	従前より居室のスペースが狭いと認識しており、今後、事業所の予算とも相談しながら施設改修などを検討していきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7		既定の人員配置以上に職員を配置しているが、児童の状況によっては、一時的に人員不足を感じる時がある。	個別支援が必要な状況の児童を同時に複数受け入れる際には、もう少し専門的支援が寺師出来るように、工夫が必要と感じている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		階段もあるが危険のないよう職員が先に降りるなど工夫をし安全に使用している。 視覚支援が必要な子もいるので視覚支援カードを使いわかりやすくしています。	空間の構造化には努めている。物理的な空間の狭さは長期的な課題として捉えている。障害特性に応じた支援の配慮と工夫には努めている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		その都度、環境を整え心地よく過ごせるよう努めている。 活動に応じてテーブルを動かして、活動に合わせたスペースを作っています。	清掃や環境の衛生維持については、日々の事業所運営として努めている。整理整頓や構造化する中で、 unnecessaryな室内装飾などは行わないように注意を払っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		活動室の隣に個別に活動できる部屋がある。 活動室の横に部屋があり落ち着いて過ごせるようになっている。 個別に話せる部屋があり、必要に応じて使用しています。	部屋数が多いわけではないが、隔離可能な別室がある。いつでも必要時に利用できるように整備されている。常時活動する空間とは明確に分けている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		その日の出来事を職員同士で話し合い、情報共有を行っている。	職員会等の場で、業務改善に関する意見交換を行っており、PDCAサイクルの回しに関しても全職員に周知している。事例報告も実施。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		年に3回保護者会を開催しており、日々の活動を写真・動画で見てもらっている。その際、保護者との意見交換をしている。	評価の結果を踏まえて、職員会や管理者会等で利用者の意見を確認して、業務改善に繋げるよう努めている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		法人とのヒアリングがあり、その際に話が出来る。	保護者評価と同様に、評価の結果を踏まえて、職員会や管理者会等で利用者の意見を確認して、業務改善に繋げるよう努めている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1	第三者評価に関しては、実施していないと聞いています。	法人の事業規模が大きくなってきている事を踏まえ、今後は第三者評価の導入を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7		研修を受講する機会を作っていたいています。	外部研修は年間通じて参加を呼び掛けており、職員のキャリア形成に連動させている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		毎週、週案を作成し週案に沿った支援を行っている。	5領域支援プログラムの実践が出来るように、細かく作成し、ホームページ等で積極的に公表していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		作成前には必ず面談をさせてもらい保護者のニーズ、本人に沿ったニーズで作成している。 面談を行い、こども、保護者の思いを聞いて放課後等デイサービス計画を作成しています。	計画相談に基づき、保護者や児童との面談を行う中で、ご家庭側で希望される支援内容や、事業所側が必要であるとする支援を擦り合わせながらサービス計画を立てている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		常に職員間で共通認識のもと、支援が行われるように、職員間での意見調整を行いながら計画立案を行っています。	計画立案段階においては、全ての児童に対して、児発管単独ではなく、職員全体で計画策定に取り組んでいる。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画書を職員間で共有している。	計画書の内容をいつでも職員が確認できるようにしている。必要に応じて内容を確認する体制としている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		現在は、主にASD児を対象としたTEACCHという評価システムを試験的に導入する事としており、今後は進んでいくと考えます。	TEACCHプログラムを支援の評価指標として取り入れるように準備を進めている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		個別支援計画などがそうした組立となったため、必要な項目に沿った支援計画を立案する事としている。細かくて難しさを感じることもありますが、重要な視点として考えております。	ガイドラインに則り、各支援の狙いや支援内容を個々の児童ごとに組み立てている。各支援に込められている大切な視点を踏まえたうえで、計画を立てている。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		児童の特性を考慮して、職員全体で計画案を作成しています。必要に応じて外部の助言もいただきながらやっています。	個人の偏った思考で計画立案しないように、事業所全体の意見を取り入れながら、最適な計画立案に努めている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		地域行事や季節的な要素を考慮して、様々な活動プログラムを提供しています。	多様な特性の児童が同時に通所しており、集団療育活動では、偏ったメニューとせず、各特性に配慮した内容に努めている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		集団が苦手な子もいるので、状況に応じて子どもの様子に合わせ支援をしています。	個々の特性により、視覚支援や構造化などの物理的支援を入れながら、集団療育活動を実践している。環境調整を大切にしている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		午前中の時間に打ち合わせをしている。利用児がいない午前中に職員間で活動の打ち合わせを行っています。	毎朝の始業時の小打合せを日々開催し、必要な確認事項を全員でチェックする体制としている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		その日の出来事を話し合い情報共有している。支援終了後にはその日になったこと、気づいたことを職員間で伝えています。	終業前の30分間ほどは、書類整備をしたうえで、当日の振り返りや改善点について情報共有している。改善点は翌日の支援に生かすこととしている。他事業所とも共有する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		毎日の活動の記録をしっかりとって、次の支援につなげている。	必要な記録は、日々の業務で徹底している。メモ帳と筆記用具は常時携帯するようにしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		年に最低3回以上はモニタリングを行い、計画の見直しをしている。児童は状況の変化が頻繁に発生します。	児童の現状によるが、3～4ヶ月ごとに定期モニタリングを実施し、再アセスメントしながら修正点等の洗い出しに繋げている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		個別支援計画にそうした内容を取り入れて支援活動を行っています。	ガイドラインをしっかりと読み解いたうえで、各支援を実践する事としている。個別支援計画にもそうした要素を入れている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		集団活動や製作等で子どもたちに声をかける。一人ひとりのペースに合わせて行っている。子どもが選択できるように工夫して活動に参加しています。	自己選択と自己決定が出来るだけ可能となる様に、必要以上の支援は避けるようにしている。考えて決める力を付けていけるように配慮している。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児発管だけではなく、主任等にも会議の出席を依頼し、児童に最も近い関係の職員が必ず同行するようにしています。	児童の状況や家庭の状況を最も把握している担当職員が同行するように努めており、ご家族の同意を得て、情報提供している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		支援会議、担当者会議等にも積極的に参加させていただいている。	関係者会議や支援会議を適時に開催するように努めており、平時からも各関係機関と連携を図りながら支援する体制としている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校側からお便りをいただいたり、変更になった際は電話をして情報共有を行っている。学校と情報共有をして送迎の対応をしたり、子どもの状況を把握をしています。	学校との連携は、当法人として重要視しており、ご家族の同意も得たうえで、必要な情報共有を平時より行っている。下校時刻等の変更時の連絡なども密に行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	保育園の見学に行ったり、支援会議に保育所の先生に参加していただくこともある。	低学年や就学時点からの利用となる児童の場合は、そうした情報共有が必要である為、保護者に同意を得たうえで、情報共有する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	対象児童なし。必要があれば保護者同意のもと、情報提供します。	該当事案が発生すれば、保護者に説明し、同意を得たうえで必要な情報提供をする。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	個別の案件として、必要時に支援のアドバイス等を頂戴しています。研修会へのお誘いを頂くこともあります。	飯田市こども発達センターひまわりの専門職に意見を求めたり、個別案件の助言や指導を頂ける体制としている。日常的に実施中。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7		長期休みの際に交流する機会を設けている。	長期休み期間中や、季節伝統行事の際に、交流することとしている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		こども部会、人材育成部会等、3名程の人員が参加している。	必要な専門部会には、必ず参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎の際や電話などで日々の様子を知らせている。連絡帳や、送迎の際に保護者とのやり取りをし共通理解に努めています。	電話連絡の際や、送迎時の玄関先での会話の際に、児童の様子についての情報交換を行う事としている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		臨床心理士の先生に来ていただき、年6回ペアレントトレーニングを受けている。法人主催のペアレントトレーニングを年6回行なっています。	ペアレントトレーニングは年間計画として実施している。家族が参加できる研修会については、保護者会の際に開催する事としている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時において、必ず面談をし、内容の細かい確認を実施しています。	契約時には、重要事項説明や契約内容の説明、確認と一緒にを行う。計画の内容は別に面談の機会を設けて説明している。

保 護 者 へ の 説 明 等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		面談、契約の時にご本人や保護者の思いを聞き、思いに沿った計画を作成している。	面談の機会を持ち、本人とご家族の意向を確認しながらサービスの提供が出来るように努めている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		計画書を一緒に内容確認しながらサインを頂くこととしている。	保護者と一緒に計画書の内容を確認し、納得いただいたから阿新を頂く方法をとっている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		連絡帳や電話で相談があるので、丁寧に対応している。	いつでも相談出来る関係性の構築に努めている。また、相談受付の際は、面談の機会を確保するように努めている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		保護者会の時に保護者同士での意見交換ができる機会を設けている。 年に3回、保護者会を開催して保護者同士で交流できる機会を設けています。	保護者会は年間2回開催している。その際は、一方的な情報伝達だけではなく、保護者同士の交流が図れるように時間の確保をしている。兄弟同士の交流に関しては、個別対応。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情対応マニュアルに沿って、迅速に対応する事としています。	苦情対応は常に迅速に行い、必ずその日のうちに一報入れて、その後の対応について、ご家庭と一緒に取り組む体制としている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		りんご通信は毎月発行しており、その他SNSで個別に必要な情報を伝達している。インターネットメールも活用している。	りんご通信をメインに、各ご家庭に情報提供している。おk別にはSNSやインターネットメールを活用して情報伝達している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報が流出しないように取り扱いに十分気を付けています。	同意書取得に努めている。必要な場合はその都度同意の取得に努めている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		個々の特性に合わせた意思疎通の手段を検討しながら日々の支援に努めています。	言葉がけのみではなく、視覚支援や文字で伝えたりする工夫を個別に行っている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		事業所のガレージでのコンサートや人形劇の企画に招待したり、ハロウィン企画では地域の方に協力いただいて町内をパレードのように歩いて回っている。 ガレージでコンサートをする際に地域の方々に声をかけています。	年間通じて地域住民との交流や共同事業を実施している。地域の皆様に育ててもらうことも必要な要素であると考えている。今後も色々な地域行事に参加したり、活動を深めていきたい。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		マニュアルは全て整備されています。訓練なども年間計画で実施できています。	各マニュアルは、毎年内容を精査し、必要箇所を修正、更新している。訓練も実施している。保護者会でご家庭に周知している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		学期ごと必ず1回は訓練を行っている。普段の療育の中でヘルメットをかぶる練習を行っている。 年3回、防災訓練を行っています。	BCP策定は法人全体として策定済みであり、各事業所において管理者監修のもとに内容の確認や更新・修正の作業を実施している。訓練は年間通じて実施している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		事前にてんかん等の状況を確認してどのように対応するのか確認して支援にあたっている。	アセスメント時において、医療的な配慮が必要な児童については細やかな聞き取りを実施している。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		アレルギーのある子どもが増えているので対応には十分気を付けています。	医師の指示書が必要な児童については、確実に指示書の提示を求めており、必要に応じて写しを控えていただいている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画により、年間通じて緊急時の対応訓練を実施している。不審者、火災、地震を想定した訓練を実施している。	安全計画に基づいた支援を行っている。研修と訓練は年間を通じて実施している。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		保護者会の場でそうした取り組みに関して情報提供している。	緊急時の連絡体制や組織的な対応方法について、マニュアルに基づいた迅速な行動が図られるように保護者会で情報提供している。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		起きてしまった時は迅速に報告書を作成し、他事業所との情報共有を行っている。 何か起きてしまったらヒヤリハット報告をし、情報共有し再発防止に取り組んでいます。	事例発生時には、迅速に報告書を記載して法人内回覧し、毎月の職員会にて報告して、再発防止に向けた意見交換を行っている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		月一回の職員会の後、虐待防止委員会を開催している。 委員会を開催し虐待・身体拘束についての話し合いをしています。	毎月の職員会に続いて開催される虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会にて、事例検討や他事業所の実施例を参考資料として研修したり、定期的に研修の機会を確保している。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		保護者会の場で、概要の説明をしている。	書類の整備も含めて、3条件が整った場合のみ実施する旨を説明している。個別にもご家族には説明している。